



先代の想いを引き継ぎ、 承継後に新たな事業展開を

有限会社 加藤金版所

東京都墨田区押上3-28-16
設立: 1970年(昭和45年)
資本金: 300万円 従業員: 6名

主な業務内容 シルクパット印刷、箔押し

「経営者に向いている」と後継者に指名

先代の輝夫氏が金箔・銀箔などの箔を印刷する技術で創業した有限会社加藤金版所。その後、シルクスクリーン印刷、パット印刷、転写などを導入し、多岐にわたる特殊印刷を手掛ける。2016年に事業を承継し、現在会社を率いるのは、先代の次男にあたる加藤泰伸さんだ。泰伸社長は、20歳で旅行会社に就職し添乗員として勤務した後、28歳で退職。元々、父が仕事をしている姿が好きだったこともあり、当

社への入社を希望した。先代へ入社を伝えるときは、すぐには許可されなかったという。先代を説得し入社した後は、営業を中心に担当し、「旅行会社で磨いた顧客対応や度胸の良さが業務に活かされた」と泰伸社長は振り返る。先代は前職の経験を活かした働きぶりが経営者に向いていると判断し、泰伸社長への事業承継を決めた。

病気をきっかけに、 本格的に事業承継に着手

家族一丸となって働く中、2015年、2016年に先代が二度の脳梗塞を患った。先代の輝夫氏は、病気を機に司法書士業を営む実兄からアドバイスを受け、本格的に事業承継の検討を開始した。同時期に、東京商工会議所ビジネスサポートデスク(BSD)へ相談を行い、代表者交代の翌年には「社長60歳『企業健康診断』®事業」を受診する。泰伸社長は「事業承継における問題点など、外部から自社を客観的に見てもらいたかった。第三者機関の客観的なアドバイスで気づきも多かった」と振り返る。



取締役会長
加藤 輝夫氏
(1937年生まれ)

代表取締役
加藤 泰伸氏
(1971年生まれ)



ものづくり補助金を利用して導入したインクジェット印刷機。「2代目社長として初めての新しいチャレンジ」と泰伸社長は語る

事業承継年表



BSDの伴走支援を受けて、自社の経営改善を実施

新社長への就任後は、BSDの支援を受けて、社内業務体制の整備を行うとともに、事業計画を策定した。5年後、10年後を見据えて業況拡大にも意欲的に取り組み、ものづくり補助金を利用して高付加価値な印刷を可能とするインクジェット印刷機を導入したこともあって、大手との新規

取引にもつながっている。その後も、資金繰り管理や労務管理など経営全般についてアドバイスを受けるなど、BSDのコーディネーターと継続的に経営改善に取り組んでいる。また、自社株式の移転や、借入金の経営者保証の切り替えにも取り組み、今ではおおむね承継が完了している。

先代への敬意と承継する喜び

社長就任が決まったとき、泰伸社長は「父に色々迷惑をかけてきたし、経営をしっかりやらないといけないと思った。同時に、先代が育ててきた会社を任せてもらえる嬉しさもあった」と目を熱くしながら当時を振り返る。先代が一人で支払いや帳面の管理を行っていたため、社長就任当初は分からないことも多く、先代の入院先へも度々訪れて話を聞いたという。今後の

課題は、「従業員の世代交代」。従業員の高齢化が進む中、技術の承継も含め、新たに従業員を雇用して徐々に取り組んでいきたいと考えている。「次代の事業承継については、具体的にはまだ考えられませんが、業績を伸ばして、無借金経営が実現できれば」と話す。先代の想いを受け継いだ泰伸社長の、新たな船出は始まったばかりだ。

事業承継を考えているみなさんへメッセージ



社長業は、実際にやってみないとわからないことが数多くあります。先代が元気なうちに、徐々に引き継いでいくことが理想ですね。



中小企業の社長は一人ですべてやらなければいけない。だからこそ、右腕を育てて後継者が社長業に専念できるようにすべきです。

ビジネスサポートデスク担当からのメッセージ



事業承継は、「何とかしないといけない」でも「何からどうしていいかわからない」と感じる方が多いのではないのでしょうか。そんな時は、家族同士で悩んでいるよりも、中立的な第三者に入ってもらう、今の状況を整理することによって、次の一歩が見えてくるものです。